

2022 年度事業報告

法人の名称 特定非営利活動法人農と福祉の未来・ハコベ

1 事業の成果

・「横浜都市農業推進プラン2019-2023」に基づき、「NPO 法人などが、教育や福祉事業として農地を利用する場合も、関係部局等と連携して、引き続き推進」する方針を、**地域、地主、行政の協力を仰ぎながら実践にうつしていく。**

（成果）2022 年末より横浜市北部農政局と交渉を開始し、農業法人としての申請を行った（2023 年 8 月承認見込み）。また、これまでの活動場所であった畑（鉄町菜園、市ヶ尾町菜園）をハコベ名義で契約できるように北部農政局からの助言をもとに地主さんとの交渉を行っていった。自然農講座の本拠地でもある鉄菜園はハコベとして地主との間で利用権を設定できる見込みがついた。また、大場町畑（700 m²）を新たに紹介してもらい、同様に利用権を設定できる見込みがついた。この他に、鉄町菜園に直接隣り合う土地についても地主と交渉することができ、300 m²を借りることができる予定である。しかし、一番長く活動していた市ヶ尾町菜園（700 m²）については、地主との交渉が不調に終わり、2023 年 11 月を持って返却することが決まった。

・「横浜市都市農業推進プラン2019-2023」に基づき、都市の中の緑・農的景観による癒しの空間を創出しつつ、自然農（不耕起栽培）の強み（表土流出の防止、砂塵による近隣住宅への影響の防止等）を活かした環境保全活動を軌道に乗せていく。

（成果）青葉区を中心とし根拠地の拡大を予定しつつ、戸塚や緑区にも当初より市民菜園を借りており、それぞれ横浜南部の方々への発信・交流、緑区は緑区生活支援センタープログラムとして活用を図ってきた。自然農（環境保全型農業、不耕起栽培、有機栽培）が市民権を得られるように活動することができた。当法人の農業法人化により、正式に農地の利用権を設定できるようになるため、横浜の耕作断念地を農地として活用できる環境が整った。

・広く一般市民を対象としながらも、これまで横浜で培ってきた精神保健福祉ボランティア活動、サロン活動の精神を大切にし、こども、子育てに奮闘する家族、障がいを持つ人、社会的ハンディキャップを持つ人々と共に、各自事業の展開によって**自己の力能の増大と芸術的感性の増大を実感できる新たな「日常」をつくる。**

（成果）ほぼ毎月実施できた中区の自然農マルシェは、コンスタントに毎回 30 名以上の方々と交流することができた。以前より活動しているボランティアや当事者の方々はもちろん、この交流を毎月楽しみにしてくださる中区花咲町、野毛界隈の住民も増えてきた。野菜の魅力はもちろんであるが、自然農活動を行うハコベへの認知が深まってきているように思う。青葉区での自然農講座は毎回 20 名前後の参加者を迎え、四季を通じた畑の変化を伝え、作物への応じ方をレクチャーした。生活の中に自然農があり、世界や社会を自然農を通じて見通すことができる仲間が少しずつ増えてきている。自然農は単なる農法ではなく、自分自身による健康回復活動であり、自分自身による文化芸術活動であり、自分自身による社会変革活動であることを実感することができた。

・1 年目に開始した各事業において、定款並びに初年度活動方針に掲げた理念を捉え返しながら実践の中で互いに考察を深め合い、**事業の深化と市民の認知の拡大を図っていく。**

（成果）当法人が農業団体として社会的に認知されるよう実績を積み重ねてきた。今年度は、ハ

コベが横浜市に農業法人として認証されるように北部農政局と交渉を行ってきた。2023 年 1 月に「農産物の生産と販売事業」を定款に追加し横浜市から NP0 法人再認証を受け、2023 年 8 月には北部農政局より農業法人として認証される見通しとなった。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 農体験、緑地保全、環境教育などを通じた生涯学習事業

- ・内 容 自然農講座、保育園の園児との体験講座、個別体験
耕さない、草や虫を敵にしない、持ち出さない持ち込まない、を理とした自然農の魅力や意義を伝え、土の上の作法と所作を身に着け、自らも実践できる力を養い、自己の力能の増大を目指す。段ボールコンポストの方法などを紹介し、家庭でもごみの減量化と資源化が実践でき、循環型社会の有り様を展望できる仲間を増やす。
- ・日 時 毎月 1 回第一日曜日、自然農講座（10 回）
都筑区保育園年長さんへの田んぼ体験（12 回）
青葉区シャローム教会・教会学校（シャローム保育園）共催田んぼ体験（3 回）
- ・場 所 青葉区の菜園、田んぼ
- ・従事者人員 120 人
- ・受益対象者 市民 540 人（講座 240 人、都筑区 200 人、シャローム 100 人）
- 7・支出額 57,980 円

② 地産地消を推進する事業

- ・内 容 自然農マルシェ、他
有志宅の軒先をお借りし、新鮮な自然農野菜を配り、お茶や野菜を使った料理、お菓子等で来訪者を歓待し交流する。近隣の方々の近況を伺ったり来訪者のご様子を伺ったり、又通りすがりの方にも声をかけお野菜を通じた繋がりを作っていく。従来実践してきた「ギフトエコノミー」の推進に加えて、商業の場への参入も視野に入れて準備を進める。
- ・日 時 毎月第 4 日曜日（計 10 回）
- ・場 所 市内
- ・従事者人員 120 人
- ・受益対象者 市民 360 人
- ・支出額 74,302 円

③ 障がいを持つ人と持たない人との交流を通じた啓発活動

- ・内 容 農カフェ
有志宅の軒先をお借りしたり、自然農菜園にてテントを張ったりして、農カフェを開催する。障がいを持つ人も持たない人も等しく活動し、野菜料理、お菓子等で来訪者を歓待し交流する。近隣の方々の近況を伺ったり来訪者のご様子を伺ったり、又通りすがりの方にも声をかけお野菜を通じた繋がりを作っていく。
- ・日 時 不定期（月に 1 回程度）
- ・場 所 市内
- ・従事者人員 0 人
- ・受益対象者 市民 0 人
- ・支出額 0 円

④ 障がいを持った方及びそのご家族への相談支援事業

・内 容 個別相談支援

これまで 25 年間行ってきた精神保健福祉ボランティアの実績や精神保健福祉士、看護師等のマンパワーを活用して、誰もが生きがいや使命を担い、平和に生きる権利を行使できるよう支援する。

・日 時 随時

・場 所 市内

・従事者人員 5 人

・受益対象者 市民 120 人

・支出額 0 円